横浜市立
中川小学校だより6月
令和5年5月31日発行
学校教育目標 人・自然・まち と ふれあいながら、自分を高める中川の子

『たい』をいっぱいに

副校長　村田　篤子

「（私が）お弁当をつくっ『た』のに、（食べ終わった）お弁当箱を出さないなんて！」

これは、私の家で繰り返される会話の１つです。娘から「ありがとう」とか「おいしかった」とかがないことにがっかりした私と、ムッとしている娘。全然楽しくありません。「本当は、娘とニコニコ会話したいのに･･･。」そんなとき、思い出すようにしているのは、元パラアイスホッケー日本代表の上原大佑さんの

「『た』に『い』をたして『たい』にしたら、楽しいよ。」という言葉です。

「○○さんに、やさしくした」から「今度はわたしにもやさしくして」と求めるのではなく、「○○さんに「やさしくし『たい』」と自分が思っていることを自覚するのが大切だそうです。

先日の２年生のサッカーの授業。「みんなでがんばり『たい』」と子ども達が一致団結し、一人ひとりが頑張ってボールをカラーコーン（的）にあてるゲームをしていました。「応援をした」のに、「（友達は）コーンにあててくれなかった」なんて誰も言わず、「応援をし『たい』」から「頑張れ！」と友達に声をかけている姿が見られました。コーンに当たっても外れても、すごく盛り上がっていました。

「○○さんを応援すると、自分も嬉しい。だから「応援し『たい』」･･･この『たい』がいっぱいの集団はとっても楽しそうです。「親切にし『たい』」「一緒に遊び『たい』」「勉強し『たい』」･･･自分の気持ちがスッキリしたり、ワクワクしたりすることにもつながります。自分もみんなも、とっても楽しいですね。

高め合うことのできる集団にはいろいろな『たい』があふれていることでしょう。『たい』をいっぱいにすることをめざして、まずは、自分の『たい』を発見し、行動してみましょう。学校も『たい』が増えるよう、子ども達を支援していきます。

私自身も、ニコニコ会話をし『たい』自分を再確認しました。もっとやさしくし『たい』自分も。

中川小学校が『たい』でいっぱいになりますように。